(ｲ) 身近な材料や用具を使い，かいたり，形をつくったりすること。

B　鑑　賞

ア　身の回りにあるものや自分たちの作品などを鑑賞する活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ｱ) 身近にあるものなどの形や色の面白さについて感じ取り，自分の見方や感じ方を広げること。

〔共通事項〕

ア　「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ｱ) 自分が感じたことや行ったことを通して，形や色などの違いに気付くこと。

(ｲ) 形や色などを基に，自分のイメージをもつこと。

○３段階

(1) 目　標

ア　形や色などの造形的な視点に気付き，表したいことに合わせて材料や用具を使い，表し方を工夫してつくるようにする。

イ　造形的なよさや美しさ，表したいことや表し方などについて考え，発想や構想をしたり，身の回りの作品などから自分の見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。

ウ　進んで表現や鑑賞の活動に取り組み，つくりだす喜びを味わうとともに，感性を育み，形や色などに関わることにより楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。

(2) 内　容

A　表　現

ア　日常生活の出来事や思ったことを基に絵をかいたり，作品をつくったりする活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ｱ) 材料や，感じたこと，想像したこと，見たこと，思ったことから表したいことを思い付くこと。

(ｲ) 様々な材料や用具を使い，工夫して絵をかいたり，作品をつくったりすること。

B　鑑　賞

ア　自分たちの作品や身の回りにある作品などを鑑賞する活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ｱ) 自分たちの作品や，日常生活の中にあるものなどの形や色，表し方の面白さなどについて，感じ取り，自分の見方や感じ方を広げること。

〔共通事項〕

ア　「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ｱ) 自分の感覚や行為を通して，形や色などの感じに気付くこと。

(ｲ) 形や色などの感じを基に，自分のイメージをもつこと。

３　指導計画の作成と内容の取扱い

(1) 指導計画の作成に当たっては，次の事項に配慮するものとする。

ア　題材など内容や時間のまとまりを見通して，その中で育む資質・能力の育成に向けて，児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際，造形的な見方・考え方を働かせ，表現したり鑑賞したりする資質・能力を相互に関連させた学習の充実を図ること。

イ　２の各段階の内容の「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たっては，相互の関連を図るようにすること。ただし，「B鑑賞」の指導に当たっては，指導の効果を高めるための必要がある場合には，児童や学校の実態に応じ，独立して行うようにすること。

ウ　２の各段階の内容の〔共通事項〕は，表現及び鑑賞の学習において共通に必要となる資質・能力であり，「A表現」及び「B鑑賞」の各事項の指導と併せて，十分な指導が行われるよう工夫すること。

エ　２の各段階の内容の「A表現」の指導に当たっては，適宜共同してつくりだす活動を取り上げるようにすること。

オ　２の各段階の内容の「B鑑賞」に当たっては，感じたことや思ったことを周りの人と共有できる機会を設けるようにすること。

カ　２の各段階の指導に当たっては，他教科や特別活動等との関連を図り，総合的に活動することで，指導の効果を高めるようにすること。

(2) ２の各段階の内容の取扱いについては，次の事項に配慮するものとする。